



平成 30 年 第 1 号

平成 30 年 7 月 4 日

おきたま 雪若丸だより

やまがた攻めの米づくり日本一運動置賜地域本部

おいしい「雪若丸」づくりに向けて！ 生育診断により“食味重視”の穂肥を！

1. 生育状況（6月29日現在）

雪若丸実証圃の生育は、指標値に比べ「草丈は短く」、「茎数は多く」、「葉数は並み～やや多く」、「葉色は並み～やや濃い」状況です。土壌還元（ワキ）の影響等により、生育のバラつきが例年になく大きくなっており、圃場ごとの対応が重要です。出穂期は「平年並み～2日早い」予想です。穂肥は遅れず行い、生育過剰な場合は施用量を減らす等、食味重視の穂肥でおいしい「雪若丸」づくりに努めましょう。

()内は指標比・差

6月29日現在		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
雪若丸	川西町	36.6(-4.4)	706(119)	9.1(-0.2)	46.3(+3.3)
	飯豊町	34.6(-6.4)	721(122)	9.6(+0.3)	39.9(-1.0)
	指標	41.0	500	9.3	43.0

2. 中干しを行っていないところは、直ちに中干し・作溝を行きましょう！

- 中干しは田面に小ヒビが入る程度を基本とします。
- 生育量が大きい場合や、葉色が濃い場合は →強め
- 生育量が小さい場合や、葉色がさめかかっている場合は →弱め

3. 「雪若丸」の生育診断について（9.5葉、6月30日頃）

【前提条件】

- 中干しを行い、土壌環境を整え、上根を張らせ、穂肥のできる状態までイネを仕上げる。
- 幼穂形成期まで葉色（SPAD値）を40未満に低下させない。
「はえぬき」より、生育量が多くても、中干しの強度を上げすぎない。
※「雪若丸」の葉色は「はえぬき」より、全般に濃く推移する。
偏穂数型でm²茎数は「はえぬき」より、多くなる。
- 目標収量 600kg/10a、検査等級 1等、玄米粗タンパク含有率 7.5%以下（乾物換算）とする。

出穂は平年並～2日早い見込み

予想出穂期 8/2～5 → 穂肥時期の目安（出穂25日前） 7/8～11

【 生育診断のポイント 】

○目標とする食味・収量・品質を確保するための生育指標（9.5 葉時）

莖数 750 本/m²（坪当たり 70 株植え：35 本/株）以下

葉色 4.4（SPAD 値）以下

※m²籾数を 30,000 粒程度とし、登熟を高めて、食味、品質を向上！

○穂肥は出穂 25 日前、窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。

生育診断結果により、次のように対応する

生育量	莖数	葉色 (SPAD)	追肥対応 (8 月 4 日出穂の場合)
適 正	560~750 本/m ²	40~44	出穂 25 日前 (7 月 10 日頃) N 成分 1.5kg/10 a
生育不足	560 本/m ² 未満	40 未満	早めの穂肥 出穂 30 日~26 日前 (7 月 5 日~7 月 9 日頃) N 成分 1.5kg/10a
生育過剰	750 本/m ² 以上	44 以上	出穂 25 日前 (7 月 10 日頃) 葉色の低下を確認し、減肥対応 N 成分 1.0~1.2kg/10a

4. いもち病・斑点米カメムシ対策は万全に！

○葉いもちの発生に十分な注意が必要です。圃場をよく見回り、**早期発見、早期防除**を徹底しましょう。

○イネ科雑草が繁茂している**畦畔・農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底**し、カメムシ類の生息密度低減に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。**水田内の残草処理も徹底**（※除草剤の使用時期を確認）しましょう。

置賜全域で

“アカヒゲホソミドリカスミカメ”の発生が多い！

今年もカメムシには要注意です！！



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ



アカスジカスミカメ

農作業事故・熱中症に注意！

◎「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。

◎暑い日が続きます。熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～